

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

「戦国大名浅井氏と小谷城」歴史文化のまち再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

滋賀県東浅井郡湖北町

3 地域再生計画の区域

滋賀県東浅井郡湖北町の全域

4 地域再生計画の目標

1) 湖北町の地勢と現状

湖北町は、琵琶湖の東北部、東浅井郡の北西部に位置しており、南は虎姫町、長浜市に接し、北は伊香郡高月町を境とし、東は長浜市の伊吹山系森林地帯、西は琵琶湖の汀線に面しています。

昭和30年に小谷村と速水村が合併して湖北町が誕生し、翌年朝日村との合併を経て今日に至っています。

町域は、東西約9.2km、南北約5.2km、総面積29.08km²で、町域のほとんどが平坦地であり、東の小谷山から西の琵琶湖に向かって緩やかな勾配をなし、緑豊かな土地が広がっています。農業が基幹産業で、人口9,200人余りの町です。

町の観光は、自然と歴史をテーマに、琵琶湖岸においては、自然豊かな景観を成し、シベリヤから渡ってくるコハクチョウや国の天然記念物オオヒシクイ等の多くの野鳥の楽園の地域であり、さらに夕日のメッカとしても多くの方が訪れます。

また、浅井氏の居城であり歴史探訪地でもある小谷城は、国の指定史跡としての山城であり、湖北町と長浜市にまたがる小谷山の頂にあり、湖北一帯をほぼ一望することができます。

2) 福祉施策における課題と問題点

当町における福祉事業は最善を尽くしているところであり、厳しい財政状況の中では

ありますが、一定の成果を見えています。特に児童福祉については、近年、当町においても出生率の低下、家族形態や就労形態の多様化等による家族のふれあう時間の減少など、児童を取りまく生活・文化・社会環境は大きく変化しているところであり、誰もが、安心して子どもを生み、喜びや楽しみを感じながら子育てができる社会づくりを目指し、子育てと就労の両立が図られるよう保育所整備や児童館設置など取り組んできました。

また、平成12年には児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し情操を豊かにすることを目的に、新たに民間により児童館が設置されたところであり、現在、当町には町立児童館と民間児童館が1施設ずつ設置されています。

しかし、以前より設置されている町立の湖北町児童館は小谷山の麓に位置しており、利用する児童の安全性について、町内で問題となっており、小谷学区の中心にある民間の児童館へ利用者がかなり多く移っている状況です。

3) 湖北町児童館について

湖北町児童館（公設公営）は、湖北町大字郡上139にあり、昭和57年4月に開設され現在に至っています。

当児童館は、町内の子どもたちのために遊びの教室や季節の行事・親子のつどいなどを実施しています。

しかしながら、近年スポーツ少年団活動や学習塾・習い事など子どもの生活スタイルや環境が多様化し児童館事業への参加者が年々減っている状況にあります。

また、新たに民間の児童館（小谷児童館）が同地域に設置されたため、利用の中心はそちらに移っており、特に小学生の利用は民間の児童館の設置前と比較して約4分の1と著しく減っている状況です。（平成11年度の利用者数952人から平成17年度の利用者数223人に減少。）

さらに、最近では、小谷山地域（小谷学区）において、熊の出没が多くあり、12月現在までに7頭が確認され、子どもが事故に巻き込まれないよう配慮しなければならず、大変危険な状況であり、町内で大きな問題となっています。



4) 小谷児童館について

社会福祉法人 光寿会 小谷児童館は、湖北町大字丁野770番地にあり、平成12年6月に開設され現在に至っております。

当児童館は、『産業経済の発展とともに、便利な生活が営むことができるようになった反面、自然破壊や家庭の機能喪失ならびに、児童・青少年にとっては健全な環境が失われつつある現状に鑑み、陶芸など造形活動を通



し、特に、中高校生の健全育成を図り、また、小学校低学年の放課後健全育成や、母親の育児と就労支援など補足的役割を果たし、さらには育児不安で悩む母親のこころの支えとなる「子育てサークル」の支援など児童・青少年健全育成と少子化対策』を図ることを目的として、整備がなされました。現在は、地域の児童・青少年に対する様々な相談や、地域の母親に対する子育て支援など多くの方に利用されています。

5) 再生への目標

当町では、次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つよう健全な遊びを提供し、健康を増進し情操を豊かにするためになくてはならない施設として、町立湖北町児童館を整備し、今日まで児童福祉事業を進めて参りました。

しかしながら、近年少子化が進み、家族形態も多様化し人間関係も希薄になっている中で、新たに民間の児童館（小谷児童館）が町内に整備され、保育事業と連携した児童館運営が開始されたことにより、利用の中心がそちらに移り、湖北町児童館は年々利用者が少なくなっている状況です。

当町では、このように町内に児童館が2施設あり、機能が重複していることから、小谷学区にある小谷児童館に機能を集約し、利用者が減少している湖北町児童館を他の施設へ転用し、有効活用を図ることを以前より検討してきたところ、地域住民をはじめとした多くの方々から、小谷城跡の資料公開やガイドの育成などのために施設を活用することについて意見がありました。

町では、第4次総合計画及び「小谷城跡野外博物館構想」において、「歴史遺産を生かして」、小谷城跡を広く一般に保存公開し、歴史遺産の保存と活用を図ることを目的に、史跡とその周辺環境を含めた総合的な整備を目指し、地域の活性化を図ることとしています。

史跡小谷城跡は中世の五大山城跡のひとつで、築城後約半世紀で落城し、そのままの遺構として残っている貴重な中世山城史跡です。

小谷城は戦国時代後半、江北の守護職佐々木京極氏の一被官から身を起こし、時代の流れに乗り、京極氏に代わって支配した浅井氏が大永年間に小谷山に築城して以来、天正元年（1573年）織田信長により滅ぼされるまでの50余年間、湖北地方の中心的な城として存在していました。



小谷城跡野外博物館構想図

しかし、城主浅井長政が織田信長に滅ぼされた後、一時浅井氏の遺領を支配した羽柴秀吉が入城した後、数年で長浜に城を築いて移って以来、草木の下に深く眠ったままとなっていました。今日では、小谷城全域の文化財調査を進めるとともに、今までの単なる文化財保存の運営から、新たに歴史文化を活かした地域活性化の取り組みを全国に発信し、さらに歴史愛好家等を育てるよう保存と活用を図っていきます。

その実現の一步として、湖北町児童館を転用して、小谷城跡にまつわる「戦国歴史資料館」として新たに整備することといたしました。

昨年、NHKで放映された大河ドラマ「功名が辻」の影響も受け、全国の多くの方々から小谷城について問い合わせや訪問がありました。「戦国歴史資料館」への転用は、地域の発展に大きく貢献することが期待され、湖北地域における小谷城跡を中心とした歴史文化の拠点施設として、地域の活性化と観光誘客を図ります。

具体的な定量目標

今回、児童館から「戦国歴史資料館」へ転用を図ることで、歴史探訪や出土品の展示説明、ネイチャースクール、歴史講座の開設などを実施し、観光客や地元地域の方々への施設利用を図り、湖北地域に多く点在する文化遺産の観光スポットとも合わせて、歴史ロマンに誘われる地域としての発展を目指します。

また、JR北陸本線の直流化が実現し、より便利で快適な鉄道整備がなされ、湖北地域への入り込みの増加も見込んでいます。

さらに、地域住民が歴史への関心が深まり、郷土愛が生まれ、誰もが自信を持って案内できるシステムづくりを目指します。

現在は、小谷城跡への入り込み客は年間36,000人の方が訪れていますが、歴史資料館を開館し、その機能を十分発揮するとともに歴史文化の伝承を図るための事業を進めることにより、小谷城跡を中心とした町内への観光をはじめとした交流人口を36,000人（平成17年度）から、平成28年度には50,000人を目標とします。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

当町は、湖北の美しい山々と豊かな自然に恵まれ、また、歴史と伝統文化に育まれ、これらの資源を活かした活力、満ちあふれるまちづくりを進めて参りました。

今回、地域の文化の伝承と観光誘客に寄与することを基本に、現在、遊休施設となしつつある湖北町児童館を転用し歴史資料館として活用し、交流人口を増やし、地域の活性化を図ります。

特に、地元の「小谷城址保勝会」と連携を図りながら、歴史文化の調査や、郷土史学習など特色ある資料館づくりを行います。

また、史跡小谷城跡に位置する立地特性を最大限に生かし、小谷山全体をフィールドとした総合的な学習の場としても活用します。

更には、湖北地域の文化遺産の観光スポットと相乗効果を図り、従来から行っている「小谷城ふるさと祭り」や浅井家ともゆかりのある「福井朝倉遺跡保存会」等の交流事業も深め、地域住民の歴史に対する関心と郷土愛がより深まることを目指します。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

支援措置の番号および名称

【A0903】 社会福祉施設の転用の弾力的な承認

【実施主体】	湖北町
【転用施設】	町立湖北町児童館
【補助金の種類】	社会福祉施設等施設整備費国庫補助金
【補助事業完了年月日】	昭和57年3月20日
【事業期間】	平成19年度から10年間

【具体的内容】

湖北町児童館を転用し、「浅井氏と小谷城」を中心とした調査研究、資料の収集・保管、企画・展示、交流・広報等を行う「戦国歴史資料館」として活用します。

また、小谷城跡清水谷という立地から、小谷城跡と一体となった運営を行い、ガイドランス（案内・手引き）機能も持つ資料館として有効活用を図り、小谷城跡の管理や観光客の案内等の拠点となると施設として、さらに、住民が史跡小谷城跡などの地域文化財や歴史的な遺産にふれあう場として、湖北町や地域の文化財整備の拠点となる歴史資料館の整備を目指します。

【要件適合性】

（1）当該施設の処分が行われない場合に不適切な事態が生ずるおそれがある事由

昭和57年4月に開設された児童福祉施設、湖北町児童館は、児童福祉法の規定により認可され、次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つよう健全な遊びを提供し、健康を増進し情操を豊かにすることを進めて参りました。しかし、近年の少子化傾向と合わせて、当学区に同様の民間施設が設置されたことにより、利用の中心はそちらに移っているため、当児童館の利用はかなり減少しており、小学生の利用は民間の児童館の設置前と比較して約4分の1と著しく減っている状況です。（平成11年度の利用者数952人から平成17年度の利用者数223人に減少。）また、山間部において設置されているため、付近に近年多く熊の出没があることから大変危険な状

況です。

今後も、交通等の利便性の良い民間の児童館に利用者が移り、当児童館の利用者はさらに減少することが予想されることから、このままでは遊休施設になる恐れがあります。

また、施設の老朽化も進んでおり、環境的にも防犯的にも不適切な事態を及ぼすことが懸念されています。

そこで当町では、機能が重複している町内の2施設の児童館について、小谷児童館に機能を集約し、利用者が減少している湖北町児童館を歴史資料館へ転用することで、「小谷城跡野外博物館構想」の整備の一施設として、施設を有効的に活用し地域再生を図っていきたいと考えています。

(2) 当該地域における転用の必要性について

今回の地域再生計画の認定申請地域の対象となる湖北地域は、小谷山の麓に位置し、小谷城跡を中心とした歴史由緒ある地域です。

今後当町では、小谷城跡をキーとした歴史文化の継承を進め、新たに教育や交流を通じた総合的な文化PRを展開し、湖北地域に多く点在する文化遺産の観光スポットとも連携を図りながら、歴史ロマンに誘われる地域としての発展を目指しています。

また、戦国歴史を学ぶための情報を当地域から発信し、全国の山城を持つ地域との交流などを通して地域の活性化を図りたいと考えています。湖北町児童館は、小谷城跡の麓において、周囲を遺跡に囲まれた唯一の施設であり、歴史文化の拠点施設として最適の立地条件にあります。

また、小谷城跡内においては、文化遺産を保存する必要があることから、新たな施設を整備することができず、歴史文化の拠点施設として新たな整備をするためには、当児童館を転用する以外に方法がありません。

さらに、この施設により予定している小谷城跡野外博物館拠点施設の機能等については、国庫補助事業である埋蔵文化財保存活用整備事業費国庫補助金（H16年4月1日文化庁長官）また、史跡等保存整備費（一般）国庫補助金（S54年4月1日文化庁長官）により、国庫補助の対象となっています。

当町では、限られた予算の中で地域の要望や住民の負託に応えるべく、歴史文化の拠点施設として当児童館を歴史資料館として転用する必要があると考えています。

(3) 同一事業者における転用について

当児童館の歴史資料館への施設転用後も引き続き、責任を持って湖北町が運営管理いたします。

(4) 転用目的等を社会福祉目的とすることが困難な事由について

当町では、町内に児童館が2施設あり、機能が重複していることから、小谷学区に

ある小谷児童館に機能を集約し、利用者が減少している湖北児童館を他の施設へ転用し、有効活用を図ることを以前より検討してきました。その中で、子どもの健全育成のための子育て支援策や、老人の憩いの施設などの社会福祉目的のための施設の転用についても十分協議してきましたが、町内において一定の整備はすでにできており、具体的な整備ならびに利活用策がなく、財政的負担を考えても明確な結果が出なかったことによる事由です。

(5) 転用前、貸与前の施設の利用者の処遇について

湖北町児童館の利用者について、現在、民間の小谷児童館に利用の中心が移っており、今後さらに小谷児童館の利用度が増していくと考えられます。これまでの湖北町児童館の機能は、今後、小谷児童館で十分代替できると考えられ、湖北町児童館の利用者の処遇は低下しないと考えています。

5 - 3 その他の事業

(1) 総合的な学習

学校教育

- ・児童や生徒の学校教育のニーズに合わせ、柔軟な選択が出来るプログラムを設け、学校教育と連携を図って行きます。
- ・このプログラムの受講が、総合教育等の学校カリキュラムの一環として位置付けるよう取り組みます。
- ・教員を対象とした様々な研修を実施し、さらに大学等の博物館実習生の受け入れも考えます。

生涯学習

- ・町民を始めとした来館者、あるいはホームページ等利用者の自己啓発活動を活発化すると共に、この活動が資料館に対する支援活動となって結びつくような体制づくりに努めます。
- ・生涯学習担当者を対象に、本館での調査研究を用いた様々な研修を実施いたします。

体験学習

- ・企画展示や野外展示を生かして、様々な体験学習のプログラムを準備いたします。
- ・発掘現場や作業室の積極的な公開や発掘方法や出土物の説明等、小谷城跡一帯の歴史資産、あるいはその価値を窺い知る機会を積極的に作ります。

ボランティア

- ・展示解説や、城跡あるいは清水谷地区への案内等、博物館活動を支援するボラン

ティア組織の育成に努め、来館者と共に自己啓発できる体制を考えます。

町内外の人との交流

- ・楽しみながら学べ、また気軽に来館できる施設として、住民あるいは観光客を含め町内外の人と交流を図って行きます。
- ・資料館の各活動において、住民参加ができる場や機会をより多く設け、その積極的な連携を促進して行きます。
- ・資料館への支援の裾野を広げるために、広く町内外に呼びかけその賛同者を募り、友の会を組織する等、会員相互の交流の場を設けます。

(2) 「小谷城ふるさと祭り」

小谷城跡ふるさと祭りは、「史跡小谷城跡の保存し文化遺産を町づくりに生かし、地域文化を再生する」ことを目的として、史跡小谷城跡の湖北町児童館前で開催され、今年度(18年度)で21回目を迎えました。地域の人たちが主体となって行われるこのイベントには、毎年多くの歴史愛好家や地域の方が来場されます。

地域文化再生・地域間交流の場として町づくりに貢献しています。

(3) 「小谷城址保勝会」との連携による他地域との交流

当町には、小谷城と浅井氏を顕彰する「小谷城址保勝会」(会員数643戸)があります。本会は、大正13年8月に地元有志により設立され、以来、小谷城跡の保存に尽力し、昭和12年4月の史跡指定の申請、平成7年の史跡追加指定に積極的に協力しました。設立以来、今日に至るまで、史跡小谷城跡の保存のため清掃奉仕や、保存の啓蒙啓発活動、浅井氏顕彰に地道な努力が行われています。この功績が認められ、平成5年に文化庁長官から感謝状を、平成12年には文部大臣より表彰をされました。今後、「小谷城址保勝会」と連携を図りながら、特色のある資料館づくりをおこないます。

また、「小谷城址保勝会」は、他地域との交流を積極的に進めており、平成4年、戦国時代浅井氏と同盟関係にあった朝倉氏を顕彰する「福井朝倉氏遺跡保存会」と「浅井・朝倉同盟」を結んでいます。今後さらに「浅井氏と小谷城」を切り口として、地域文化再生の中核をなす団体である「小谷城址保勝会」と連携しながら、他地域と積極的な交流を図ります。

6 計画期間

認定の日から平成28年度まで

7 目標の達成状況にかかる評価に関する事項

当町において、教育と観光の両面から交流人口の増加を図り、その数値を統計的

に分析し評価いたします。また、改善すべき事項の検討等を行うこととしています。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし